

## 第 1 2 回 連邦大統領、州首相、州教育大臣御来校



色紙に署名される（左から）州首相、連邦大統領、州教育大臣

2005 年 1 月 6 日（木）、2004 年度 3 学期始業式の日、本校はウルトラカラットの賓客をお迎えした。ホルスト・ケーラー第 9 代ドイツ連邦大統領御夫妻、ペール・シュタインブリュック NRW（ノルトライン・ヴェストファーレン）州首相御夫妻、ウーテ・シェーフアー NRW 州教育大臣、それに公式訪問のこの方々を日本側の代表としてお迎えするためにベルリンから態々（わざわざ）いらして下さった高島有終（ゆうしゅう）大使御夫妻の 7 名である。

25 年前の 1979 年 10 月 22 日に当時の西ドイツ第 4 代連邦大統領のヴァルター・シェール氏を秋晴れの下にお迎えしたことはあるが、その時同氏は退任後 5 か月を経ており、この度のような 2～30 名もの報道陣が同行するような大々的な御来校ではなかった。それゆえ現職の大統領、州首相、教育大臣を一堂に会してお迎えする事は本校 34 年の歴史の中でも始まって以来のことであり、多分空前にして絶後のことと思われる。

2 日間に亘る NRW 州公式訪問に際しては、州側から大統領を御案内する候補地のロングリストが提出され、その沢山の中から大統領御自身によって選ばれたごく僅かの訪問地に、本校とお隣の「恵光」ハウスの 2 箇所が含まれていたことを知る時（デュッセルドルフ市の役所関係には全く接触なし）一層有難く光栄に思われる。日本へのこれほどの御配意は「2005/06 日本に於けるドイツ年」(Deutschland in Japan 2005/06) への御支援であり、その開会式のために本年 4 月上旬に御夫妻で日本を訪問されるからである。この御訪問のことはハブニングで生徒達の中に入って行っの御挨拶の中でも言及された。

体育館での歓迎式では全生徒によって、ベートーヴェンの第九の合唱、シラーの頌歌（しょうか）『喜びに寄す』（"An die Freude"）が日本語とドイツ語で歌われたが、大統領はお世辞ではなく本当に感心、感激されたようで御挨拶でも色紙でもその事に言及された。

3名の方々の色紙は次の通り。（オリジナルは新校舎入口ホールに掲示）

“Ich habe Schillers‘An die Freude‘ noch nie so schön von Schulkindern einer ganzen Schule vorgetragen gehört.“（Horst Köhler）

「私はシラーの『喜びに寄す』が学校全体の生徒達によってこれほど見事に歌われるのを聞いたことは一度もありません。」（ホルスト・ケーラードイツ連邦共和国大統領）

”Ich bin sehr froh, dass es diese japanische Schule in Düsseldorf gibt und wünsche allen Erfolg und Wohlbefinden.“（Peer Steinbrück）

「私はこの日本人学校がデュッセルドルフにある事を大変嬉しく思うとともに、皆さんのご成功とご健在を祈念します。」（ペール・シュタインブリュック NRW 州首相）

“Ein wunderbarer Empfang ! Alles Gute weiterhin für die Japanische Schule.“（Ihre Ute Schäfer, 6. 1. 2005）

「素晴らしい歓迎です。日本人学校の一層のご多幸を。」（ウーテ・シェーファー NRW 州教育大臣）



新校舎入り口に掲示されている 3 枚の色紙  
（右から州首相、連邦大統領、州教育大臣）